

お知らせ

平成29年11月20日
独立行政法人農林漁業信用基金
林業管理室

林材業の業況動向調査(平成29年度下期)の結果について

当信用基金では、全国の林材業の短期的動向を把握し、林業信用保証制度の適切な運営に資することを目的として、昭和51年10月以降、上期(4月～9月)及び下期(10月～翌年3月)の状況を継続的に調査しています。

今回は、平成29年度下期分として本年11月に調査した結果を別添のとおり、とりまとめましたので、お知らせいたします。

お問い合わせ先
林業管理室：原
TEL:03-3294-5581
FAX:03-3294-5595

林材業の業況動向調査結果の概要（要点）
（平成29年度下期）

平成29年11月
独立行政法人農林漁業信用基金

（調査概要）

- 独立行政法人農林漁業信用基金が、業務参考資料として、年2回実施。
 - 今回は平成29年11月時点での下期（29年10月～30年3月）の現況・見通し、29年度上期（29年4月～29年9月）の実績を調査したもの。
有効回答回収率は44.0%（有効回答企業220社）
 - 詳細情報は当基金のHP（<http://www.jaffic.go.jp/>）に掲載予定。
- （凡例）
- ・DI：動向指数（Diffusion Index）。プラス要因指数からマイナス要因指数を控除し算出
 - ・△○P：マイナス○ポイント
 - ・前回（調査）：平成29年6月に実施した本調査（平成29年度上期調査）

1 売上の見通し

売上の見通しDI（増加－減少）は△3Pとなった（前回は△8Pであり5P上昇）。

2 資金繰り等の見通し

- (1) 資金繰りの見通しDI（好転－悪化）は△9Pとなった（前回は△6Pであり3P下降）。
- (2) 借入金調達難易度の見通しDI（容易－困難）は3Pとなった（前回は5Pであり2P下降）。
- (3) 借入金残高の見通しDI（減少－増加）は△11Pとなった（前回は△17Pであり6P上昇）。
- (4) 短期借入金の金利の見通しDI（低下－上昇）は△4Pとなった（前回は△8Pであり4P上昇）。平均金利の実績は2.02%となった（前回同様）。
- (5) 売上代金の回収状況及び仕入代金の決済状況については、
 - ① 売上代金の回収状況は「手形50%以下」が上昇し、それ以外は横這いまたは下降した。
 - ② 受取手形のサイトの状況は、「5ヵ月以上6ヵ月未満」と「6ヵ月以上」の割合が上昇し、それ以外は横這いまたは下降した。
 - ③ 仕入代金の決済状況は「手形80%以上」が上昇し、それ以外は横這いまたは下降した。
 - ④ 支払手形のサイトの状況は、「3ヵ月未満」・「3ヵ月以上4ヵ月未満」・「5ヵ月以上6ヵ月未満」が上昇し、それ以外は横這いまたは下降した。

3 設備投資の意向

- (1) 設備投資の見通しDI（実施－不実施）は△36Pとなった（前回は△29Pであり7P下降した）。29年度上期に設備投資を実施した企業の割合は30%であり、DIは見通しより10P少ない。
- (2) 設備投資の目的（上位3項目）は、「老朽化に伴う設備の更新」（61%）、「コスト低減等の合理化」（19%）「規模拡大のための増設」（10%）であった。

4 在庫量の見通し

- (1) 原木在庫量の見通しDI（過小－過大）は△25Pとなった（前回は△19Pであり6P下降）。
- (2) 製品在庫量の見通しDI（過小－過大）は△4Pとなった（前回は△1Pであり3P下降）。

5 純利益の見通し

純利益の見通しDI（増加－減少）は△11Pとなった（前回は△16Pであり5P上昇）。
地域別見通しDIは、「北海道」・「東北」・「関東」・「東海」・「九州」は前回調査に比べ上昇、その他の地域では下降し、全国平均では前回より6P上昇した。

6 木材価格の見通し

- (1) 原木価格の見通しDI（下落－上昇）は35Pとなった（前回は14Pであり21P上昇）。
- (2) 製品価格の見通しDI（上昇－下落）は6Pとなった（前回は△6Pであり12P上昇）。

7 当面する経営上の問題点

- (1) 経営上の問題点（上位3項目）は、「売上不振」（19%）、「原材料仕入れ原価上昇」（18%）・「人手不足」（18%）、「人件費増加」（13%）であった。

8 今後の経営の見通し他

- (1) 今後の経営の見通しDI（楽－苦しい）は△16Pとなった（前回は△17Pであり1P上昇）。
- (2) 今後の事業方針DI（拡大－縮小・転廃業）は7Pとなった（前回は4Pであり前回より3P上昇）。

以上